

# 令和8年度 県立古河第一高等学校（定時制）自己評価表

目指す学校像	校訓「高潔至誠 質実剛健 協同自治」の精神を基盤に、確かな学力と豊かな心・健やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となって活躍できる人財を育成する。 (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、自ら課題を見つけ、自ら解決する力を育む学校 (2) 望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人ひとりの夢（希望進路）を実現する学校 (3) 基本的な生活習慣を確立させ、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を養う学校 (4) 特別活動や部活動を通して健やかな心身を育成し、協働を通して人間力の向上を目指す学校 (5) 情報発信の充実により「開かれた学校」を目指すとともに、家庭や地域との連携を通して、地域社会と協働できる学校 (6) 働き方改革を推進する学校		
	三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	基礎的な学力と豊かな心、健やかな体を育て、主体性や社会性を身に付け、社会の一員として貢献できる人財の育成を目指す。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人一人の多様な進路希望を実現する教育課程を実施する。	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	中学校で学習した内容を基に、高等学校での学習内容を深め、協働しながら卒業に向かって努力できる生徒を受け入れる。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の学び直しの指導に重点を置き、学ぶ楽しさを実感させる。</li> <li>令和7年度卒業生は8名、うち就職は5名、未定者3名であった。生徒全員の進路希望を実現するため、引き続き情報収集や適切な進路指導に努める。</li> <li>単位修得を意識させ、生徒理解に基づく個に応じた指導を引き続き行う。</li> <li>生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻者を減らす。また、服装容儀の確認を通</li> </ul>	学力の向上と学業の継続 授業改善の推進	①雇用主や家庭との連絡を密にし、生徒の欠席・遅刻を未然に防止して学習の継続を図るとともに、学業を継続させるよう努力する。 ②基礎・基本を丁寧に指導することで、毎時間の授業の理解度を高める。また、ICTの利用等を通して生徒の興味関心を高め、より主体的な生徒の学びを引き出せるよう、授業の改善に努める。 ③生徒が主体的に学習に取り組む態度を養えるように、教科等横断的な学びを意識した教材研究や研修を活用し、授業力の向上に努める。 ④ICT機器（タブレット、電子黒板等）の利用方法について習熟し、授業での効果的な利活用を目指す。併せて、自分の考えを他者に正確に伝えられる力を養え	

別紙様式 2 (高)

して、自己を振り返り社会人としての意識改革を図る。 ・ 規律ある落ち着いた学校生活を送っている生徒が多い。さらに、集団の一員としての自覚、規範意識の高揚を図るための指導を展開する。 ・ キャリアパスポートの運用方法について校内の共通理解を図り、積極的な利活用を推奨する。 ・ 開かれた学校を目指し、ホームページや各種通信、学校説明会等の充実を通して、保護者や地域へ適切な情報発信を行う。併せて、中学校訪問や学校評議員会、PTA活動等を通して情報収集に努め、さらに開かれた学校づくりを推進する。		るように授業の改善を積み重ね、生徒のプレゼンテーション能力の向上を目指す。 ⑤授業満足度 (KPI) : 「生徒による授業評価」の最終評価において、「授業満足度」の平均値が 3.3 以上となることを目指す。		
	生徒支援の充実	⑥家庭や職場と情報を共有して生徒の実態を把握し、生徒を取り巻く環境の理解を深めた上で、教師と生徒のよりよい人間関係に基づいた生徒支援を行う。 ⑦学校生活を通じて、教師と生徒との信頼関係を築き、何事でも相談できる雰囲気づくりを進める。 ⑧潜在的ないじめや非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。 ⑨安全教育に努め、事故の未然防止を図る。 ⑩粘り強い指導により、遅刻・欠課・早退などを減少させ、生活習慣の確立を図る。		
	健康管理と体力増進	⑪学校給食におけるマナーを身に付けさせる。 ⑫学校給食を通して食生活の大切さを認識させ、健康な身体づくりを推進する。 ⑬食育や健康教育に取り組み、生涯にわたって自ら健康を維持できる実践力を育む。 ⑭特別活動を奨励し、心身共に健康な生徒を育成する。		
	開かれた学校づくりの推進	⑮定通教育振興会との連携や支援を受けて、「教育の日」の行事を含む教育活動をホームページ等で積極的に発信していく。 ⑯外部講師による授業等の機会を積極的に設け、地域社会との連携を図る。		
	「働き方改革」の推進	⑰勤務時間を遵守し、最終退勤時間を 22 時とする。 ⑱校内サーバーやワークフローシステム等の利活用により、業務の効率化を図る。 ⑲衛生委員会を中心に、職員間で働き方についての工夫を提案し、実践につなげる。 ⑳学校行事等の精選を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度 (学期) への主な課題
教 務	授業時間の確保に努める。	年間指導計画を見直し、行事等の精選と併せて、授業の改善及び質の向上に努める。(②・⑤・⑳) 授業の開始と終了時間を厳守する。(⑥・⑩)		
	授業研究等の校内研修の充実に努める。	教科の枠を超えて相互授業参観を行い、授業力の向上を図る。(③・④・⑤)		
	教育活動の公表に努める。	学校ホームページや学校説明会などを活用し、教育活動の積極的な公表に努める。(⑮)		

別紙様式2 (高)

教 務		保護者・中学校教員・定通教育振興会員を対象とする年2回の授業参観・懇談会を実施し、積極的な情報発信に努める。(15)			
生徒支援	基本的な生活習慣の確立を図る。	保護者・家庭との情報交換を密にし、連携して遅刻の減少に努める。(1・6)			
	非行の早期発見に努め、未然防止と生徒支援の充実を図る。	薬物乱用防止講演会を通して、薬物使用による人体への影響を理解させ、その予防を図る。(9)			
		学校生活全般を通して、規則を遵守する意味や意義の理解を促し、自己指導能力の育成を図る。(10)			
		儀式的行事だけではなく、講演会や集団行動の際には正装を徹底する。(10)			
	いじめに関して、学校いじめ防止法に基づき、いじめ防止に努める。	学校いじめ防止基本方針に示す評価規準に照らし、いじめに関するアンケート調査を行い、早期発見、実態把握及びいじめ解消に向けた対応を適切に行う。(8)			
	安全教育を進め、事故の未然防止に努める。	交通安全教育を実施すると同時に、定期的な登下校指導を行う。(9)			
生徒の通学手段を把握し、必要に応じた指導を適切に行う。(9)					
保 健	健康の保持増進のための一連の検査を適正に実施する。	体位測定、内科検診、歯科検診、胸部検査、心臓検査、尿検査等の法定諸検査を、職員及び保健関係機関、学校医の協力を得て計画的かつ円滑に実施する。(13)			
	心の健康教育、性教育など生徒の健康教育を推進する。	保健所、県関係諸機関、医療機関、スクールカウンセラー等と連携を図り、生徒の心身の健康の保持増進を図る。(7)			
	学校環境衛生の安全確保及び学習活動に適切な環境の維持向上を図る。	校内の教育活動に適した環境の整備及び保持を図る。(9)			
		関係機関や自治体と連携し避難訓練を行い、住んでいる地域の防災体制について理解を深める。(9)			
給食を通して望ましい食習慣を身につけさせる。	食事前の手洗いを励行し、食事のマナーを身につけさせるとともに、食育を通して自らの健康を維持する必要性を理解させ、望ましい食習慣を確立する。(11・12・13)				

別紙様式2 (高)

進路指導	進路希望に応じた面談の充実を図る。	生徒面談、家庭との連携を軸に進路実現に向けた信頼関係の向上を図る。 (⑥・⑦)			
		進路希望に応じ、適切な助言と支援の実践に努める。(①・⑥)			
	就職希望者の進路実現に向けた企業開拓に努める。	進学・就職実績や、本校定時制に理解のある学校・企業を中心に積極的な進路開拓を行い、卒業予定者全員の進路実現に努める。(①・⑥・⑦)			
特別活動	生徒の自主性と協調性を養う。	各種学校行事を生徒主体で企画・運営させ、円滑な実施ができるように指導・助言する。(③・⑦)			
		各種委員会の生徒を中心に、学年の枠を超えた委員会活動を行う。(③・⑦)			
	豊かで充実した学校生活を送るための環境整備を図る。	生徒が部活動に積極的に参加できる環境をつくる。(⑭)			
		奉仕活動や災害ボランティアに対する意識向上を通して、社会性を育む。(③・⑦)			
キャリアパスポートの活用により自己肯定感を涵養する。	キャリアパスポートの活用により、自らの学習状況を見通したり振り返ったりして、適正な自己評価を行う態度を育成する。よって自己肯定感を涵養する。(③・⑦)				
第1学年	生徒支援を充実させる。	保護者・家庭との連絡を密にして、無断遅刻・欠席の未然防止に努める。(⑥・⑩)			
		日常的に生徒の観察に努め、服装・頭髪の変化等に気を配り、生活面の乱れを未然に防ぐ。(⑥・⑦)			
	基礎学力の向上を図る。	各教科担当者と常に連携して共通理解を図り、学期ごとに学習に苦慮している生徒の支援を行う。(①)			
	早期からの進路実現に向けた準備を開始する。	キャリア形成の資料を提供し、面談を通して自己実現に向けた目標や計画立案のための支援をする。(⑦)			
第2学年	基本的生活習慣の確立に努める。	欠席・遅刻等を増やさないよう呼びかけ、落ち着いた学校生活の構築に向けた支援を図る。(⑧・⑨・⑩)			

別紙様式2 (高)

第2学年		保護者との連絡を密にし、メンタル不調や友人関係のつまずきに早期に対応できる態勢を構築する。(①・⑥)		
	学校行事に主体的に参加する意識を涵養する。	学校の中核を担う学年となる意識を育成する。(⑦・⑭)		
		委員会やホームルームにおける役割を明確にし、積極的に学校行事等に取り組みさせる。(⑥・⑦)		
	進路実現に向けた準備を重ねる。	自己の進路希望を明確にし、その実現のための方策を考えさせるなど、進路に関する意識を高める。(⑥・⑩)		
進路決定に必要な自己分析・自己理解に努める。(⑥)				
第3学年	生活習慣の確立と	保護者・家庭との連携を図り、校内のルールはもとより、社会や地域の一員としてのマナーを身につけさせる。(①・⑥・⑪)		
		学校の中核を担う学年としての意識を涵養するとともに、成功体験を通して自己肯定感、達成感を高揚する。(⑦・⑭)		
	学習意欲の向上を図る。	三修三卒を希望する生徒に対しては、実現に向けた支援を行う。(②・③・④)		
	自己実現のために、進路意識の涵養を図る。	進路について具体的に学習する機会を設け、進路希望の実現に向けた目標や計画を立てさせる。(⑥・⑦)		
社会人になることを念頭に置きながら進路活動を充実させ、向上心を醸成する。(⑥・⑦)				
第4学年	社会人として必要な学力・マナーの定着と意識の向上を図る。	進路希望に応じた学力を身に付けるとともに、就職・進学等の試験の場面で力を発揮できるように指導に努める。(②・⑩)		
		基本的な社会習慣、マナーを身につけさせ、必要とされる場面に応じて実践できるよう、指導に努める。(⑥・⑦)		
	具体的な進路希望を明確化し、進路実現を図る。	最高学年としての自覚に基づき、進路希望を明確にするとともにミスマッチを回避した進路実現に努める。(⑥・⑩)		

別紙様式2 (高)

開かれた学校	地域や保護者に情報を発信する。	学校ホームページや学校パンフレットなどを通して活動状況を密に発信する。(15)			
	広報活動を推進する。	学校説明会や学校公開・中学校訪問等を通して、広報活動に努める。(15)			
		Web 上での学校説明の内容を充実させる。(15)			
	学校関係者との連携を密にする。	定通振興会・同窓会・学校評議員・PTAとの連携を密にし、意見聴取や支援等により教育内容の充実・改善につなげる。(15・16)			
働き方改革	業務の見直しと業務時間の平準化を心掛ける。	各校務分掌内において業務や行事の見直しを適正に行い、構成員間の業務時間の平準化を図る工夫に取り組む。(17)			
	情報共有の効率化に努める。	校内サーバーや教育情報ネットワークを利用し、業務の共通理解や効率化を図る。(18)			
	職員の意識高揚と実践の具体化を図る。	衛生委員会において働き方についての工夫や改善方法について提案し、実践につなげる。(19)			
教科指導	授業第一の意識を向上させる。	職員間の情報共有を密にして連携を図り、授業に真剣に取り組む意識を高める。(1)			
	生徒の学力向上に努める。	授業内容の精選や教材の工夫により、個に応じた指導を展開する。(2)			
		生徒の実態に応じた指導法を研修し、授業に活かす。(3・4)			
国語	基礎学力の向上を図る。	基本的な漢字の読み書きを徹底して学び、定着を図る。(2)			
		小テストを通して、慣用句・四字熟語などの語彙の定着を図る。(2)			
		様々な文章にふれる機会を増やし、文章の構成・主題を理解させる。(3)			
	わかりやすい授業展開に努める。	タブレット、電子黒板等の利用を通して、生徒の興味関心を引き出す工夫をする。(4)			

別紙様式2 (高)

	進路実現を見通した指導を充実させる。	一般常識として必要な言葉（敬語等）についての知識理解を深め、言葉に対する感性を磨く。(②・③)			
		自己表現としての「書く」「話す」を適切にできるような授業展開に努める。(②・③)			
地理歴史	基礎学力の定着と向上を図る。	教科書・地図帳を補完する自作教材の研究に努め、授業に反映させる。(②・④)			
	地理や歴史への興味・関心を引き出し、学習意欲の向上を図る。	電子黒板、タブレット端末、パネル等の視聴覚教材を効果的に活用することで、興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。(②・⑤)			
公民	基礎学力の定着と向上を図る。	教科書を補完する自作教材を研究し、授業に反映させることで学力の向上に努める。(②・④)			
	社会の一員として生きることへの興味・関心を高める。	電子黒板、タブレット端末、パネル等の視聴覚教材を効果的に活用し、社会で生きることの意味を考える手立てにする。(②・⑤)			
数学	基礎学力の向上を図る。	I C T機器を活用したり、独自のプリントを作成し利用したりしながら、きめ細かい指導を行う。(②・④)			
	わかる喜びを実感する授業への改善に努める。	義務教育段階の基礎基本をしっかりと補填しつつ、生徒の実態に合わせて内容を精選した授業を展開する。必要に応じて補習授業を実施する。(②・⑤)			
理科	基礎学力の向上を図る。	教科書以外の教材の積極的な利用を進める。(④)			
	理科への興味をもたせる。	身の周りの具体的な例をあげ、学問と実際の例とをつなげる。(②・③)			
保健体育	生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、基本的な技能を身につけさせる。	バランスよく種目を配分した年間計画を作成し、基本的な技能を身に付ける。(②・③)			
		複数の種目を選択・履修させることで、進んでスポーツに取り組む環境をつくる。(③・⑤)			

別紙様式 2 (高)

保健体育		ウォーミングアップを個人ないしグループで考え、主体的な取り組みを充実させる。(④)			
	健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	生徒の実態に合わせてスポーツテストに取り組みせ、結果が前年を上回ることを目指す。(③)			
		食生活の見直しを通して健康の保持増進に効果的な食事の在り方を考えさせる。(⑫・⑬)			
芸術	基本的な学習習慣を定着させる。	毎時間の授業を大切にすることを身に付けさせ、学習内容の定着を図る。(②)			
	情操教育を充実させる。	生徒個々人の感性や情操を育てる学習環境を整備し、作品づくりを通して感性を養う。(③・⑦)			
	鑑賞教育を充実させる。	他者の作品を鑑賞したり、評価したりすることを通して、鑑賞する能力の向上を図る。(③・⑤)			
外国語	基礎・基本の学力の定着を図る。	学び直しの時間を設け、ゆとりある授業展開を測る。(②・③)			
		プリントやICT機器等を活用して、繰り返し指導を行う。(②・④)			
	コミュニケーション能力を育成する。	英語の音声面の指導を積極的に行う。(②)			
		教科書の例文を利用して、簡単な英作文ができるようにする。(②)			
	個に応じた指導をする。	到達度に応じ、個々に対応した指導を行う。(②)			
		学習目標を明確化し、主体的に学ぶ態度を養う。(③・④・⑤)			
家庭	家庭や地域の生活課題について考えさせる。	家庭・家族の意義や社会との関わりについて理解し、男女平等や協力について認識させる。(②)			
		子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉について理解させる。(②・③)			

別紙様式2 (高)

家 庭	生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。	消費者の権利と責任などについて理解させ、消費生活の課題について認識させる。(②・③)			
		生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己の生活について主体的に考えさせる。(⑬)			
情 報	基礎知識の向上を図る。	I C T機器の活用を通して、教科等横断的な資質・能力を育成する。(②)			
		実習を通して生徒の知識や能力を把握し、個別指導や補習等を通して能力の向上を図る。(②)			
	情報を活用する態度を育てる。	正しい情報の発信や収集方法を知り、情報リテラシーを身に付けさせる。(②)			
商 業	基礎知識の向上を図る。	簿記に対して興味・関心をもたせ、基本的な仕組みについて理解させる。(②)			
		ビジネスの基礎や実務に関する基本的な知識を身に付けさせる。(②)			
	検定に合格できる実力を養成する。	練習問題や過去問題の反復練習を行い、検定試験合格の実力をつける。(②)			

※ 評価基準 A：十分達成できている B：概ね達成できている C：不十分である